

## 第14期Aコース（ニュージーランド）出発レポート

### □ 留学に向けて出発

令和8年1月23日（木）、アドバンストクラス2人を含めた第14期Aコースの研修生33人がニュージーランドへの留学に向けて出発しました。成田空港では、東京都教職員研修センターの職員から「東京都の代表としての自覚をもつこと」「家族をはじめいろいろな方のサポートがあって留学に行けること」など、留学生活に向けた激励のメッセージが送られました。中には涙をこらえながら研修生を送り出す保護者の方の姿が見られました。研修生は見送りの方々の温かい声援を受け、新たな希望を胸に、経由地の香港行きの飛行機に乗り込みました。



< 激励のメッセージを受ける研修生 >



< 香港空港での乗り継ぎの様子 >

### □ ニュージーランド到着

香港での乗り継ぎを経て、出発から約23時間後、ようやくニュージーランドのオークランド空港に到着しました。空港に着陸する前、空の上からニュージーランドが見えた時には研修生たちから「急に緊張してきた!」「めっちゃくちゃ海の色きれい!」「羊見えるかな?」「緑ばかりだと思っていたけれど建物も多い!」と様々な声が聞こえました。自分たちで説明が必要な入国審査をなんとかクリアし、宿舎である Auckland University of Technology Students Accommodation に到着しました。長旅で疲れが出ている研修生も多い中、宿泊に関するオリエンテーションではきちんと説明を聞いて明日からの活動のイメージを持つことができていました。

日の長いニュージーランドでは20時頃まで明るいのですが、20時少し前に外を見るとダブルの虹が出ていました。みんなのこれからの留学生活を応援してくれているような虹でした。



< 飛行機から見えたニュージーランド >



< マオリ語がお出迎え >



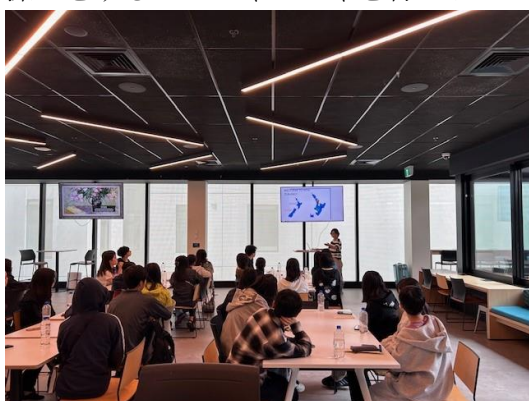
<オリエンテーションの様子>



<歓迎のダブルレインボー>

## □ 現地到着オリエンテーション

3日目は、現地受入機関によるオリエンテーションが実施されました。オリエンテーションの前半では、滞在期間中に必要な手続きや注意事項をはじめ、滞在中に想定される事例をもとに間違い探しをするアクティビティを行いました。



<到着オリエンテーション>



<アクティビティの様子>

後半は先輩留学生と現地学生との交流を行いました。先輩留学生からは、「最初はまったく英語が話せなかったけれどなんとかなると思って生活をした。恥ずかしいかもしれないけれど趣味などをきっかけに自分からコミュニケーションを取っていくことが大切」などのアドバイスをもらいました。



<先輩留学生からのお話>

現地学生との交流ではさらに具体的な生活についての会話が繰り広げられ、ホストファミリーとのコミュニケーションの取り方では「コミュニケーションのためにホストファミリーと一緒に料理

をすること」「常に笑顔でいること」「助けてくれますか」「お手伝いすることはありますか」など具体的な声かけが大切であることがあがりました。

また、学校での友達の作り方では「オープンマインドやクラブ活動を楽しむ」「教科をいっぱい取って知り合いを増やす」「会話の中で相手のすてきだと思いを盛り込んでいく」などいろいろなアイデアが出ました。学業と生活のバランスをどうやって取るかについては「ストレスをためないように工夫をする」「友達と一緒に勉強する」などの意見が英語で発表されました。

最後にこの留学を終えた後のゴールイメージについての意見交換が行われました。



#### <現地高校生との交流>

午後にはオークランド市内を徒歩で散策。オークランド・アートギャラリーや駅、港の周辺をまわりました。バスの乗り降りの仕方の説明を受け、日本とは異なるルールに研修生たちは驚いていました。



<オークランド市内散策>



<オークランドの街並み>



<オークランド・アートギャラリー前>



<港でスカイタワーを背景に集合写真>

今日の最後に一人一人、留學生活への意思表示のスピーチを英語で行いました。「コミュニケーションを取って生活に慣れたい」「この留学のサポートをしてくれた方々に感謝し、頑張って学びたい」「この留学で学んだことを次の世代の子供たちにもつなげたい」など思い思いのスピーチを

行いました。10 か月後のスピーチでの成長ぶりが楽しみです。



<留学生活に向けた決意表明を行う研修生たち>

#### □ ホームステイ先へ移動

4 日目、33 名の留学生たちは7 地区のホームステイ先に移動です。これまで事前研修を共にしてきた研修生同士、お互いの健闘を願いながらハグをし合ってそれぞれの場所に向かっていきました。待ち合わせ場所の空港や学校でホストファミリーと出会った研修生は、あたたかな歓迎を受け、少し緊張がほぐれた様子でした。

これから10 か月間、現地校に通い、言葉も文化も異なる環境での生活。緊張と楽しみが混ざり合っていることと思います。この10 か月間でしかできない経験を力に変えるべく、決意表明でそれぞれが述べた目標に向かって学びを深めていくことでしょう。10 か月後、新たなものの見方や考え方を持ち、広い視野で社会を捉える次世代のリーダーとして成長し、帰国する日を楽しみにしています。



<ホストファミリーに迎えられる研修生>